

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：民生費 項：社会福祉費 目：老人福祉費

事業名 認知症支援普及啓発事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部 高齢福祉課 介護保険者係 電話番号：058-272-1111(内3467)

E-mail：c11215@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 743 千円 (前年度予算額：1,758 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	1,758	879	0	0	0	0	0	0	879
要求額	743	371	0	0	0	0	0	0	372
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

高齢社会を迎え、認知症患者は増え続けることが想定されるため、認知症となっても安心して地域で暮らしていける体制を整備することが必要であり、そのためには県民の認知症に関する理解が必要である。

そこで、認知症の知識を持ち、できる範囲で支援する認知症サポーターの養成を推進する必要があるほか、高校生、大学生、企業への認知症サポーター養成を促していく。また、世界アルツハイマー月間(9月)やアルツハイマーデー(9月21日)にあわせ、県民に広く認知症への関心と理解を深めるため、啓発活動を実施する。

(2) 事業内容

① 認知症サポーター等養成事業

地域全体での支援体制づくりのため、地域機関と連携して広くキャラバン・メイトの養成を行う。

② 認知症サポーター養成講座開催事業

高校生、大学生及び企業向けに認知症を理解し支援方法を学ぶための講座を開催する。(高校生向けは平成29年度、大学生向けは平成30年度、企業向けは令和元年度より実施)

③ 認知症普及啓発事業

県民に広く認知症についての関心と理解を深めるため、世界アルツハイマーデー(毎年9月21日)にあわせて、リーフレットの作成・配布を行う。

(3) 県負担・補助率の考え方

国庫負担 1/2、県負担 1/2

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	0	講師報償費
旅費	124	講師費用弁償、業務旅費
需用費	478	消耗品費、会議費、印刷製本費、テキスト代
役員費	108	電話代、郵便代
委託料	0	認知症啓発事業
その他	33	会場使用料
合計	743	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「岐阜県高齢者安心計画」 2-1 認知症対策の推進

(2) 後年度の財政負担

認知症高齢者の増加が続くため、引き続き事業実施が必要。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 認知症高齢者が増加しても、地域で暮らすことができるように住民・行政が認知症について理解ある体制を作る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R27)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R7)	達成率
①認知症サポーター養成人数	116, 172	226, 601			255, 000	88. 9%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和 2 年度	<ul style="list-style-type: none"> 取組内容と成果を記載してください。 認知症サポーター養成講座（高校：5回、企業：1回）
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和 3 年度	<ul style="list-style-type: none"> 取組内容と成果を記載してください。 認知症サポーター養成講座（高校：3回、大学：4回、企業：1回）
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和 4 年度	<p style="color: red;">令和6年度当初予算にて追加</p>
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない 	
(評価) 2	今後さらに増加が予測される認知症高齢者への対応のため、認知症の早期発見・早期治療の仕組みづくり、地域における支えあいの体制構築が不可欠である。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない 	
(評価) 2	継続的な養成により、認知症サポーターの養成数の目標に届くようにする。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている 	
(評価) 2	各講座について、参加人数に応じた適正な回数・開催場所にて効率的に実施している。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 養成されたサポーターの活動支援等を実施、質の高い活動へつなげる必要がある。
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 各種講座において目標達成に向け、県だけでなく各市町村等の協力を経て、継続的に実施していく。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由 や期待する効果 など	【〇〇課】